

夕又子先生と 4人の名探偵

しかた・しん 作

エム・ナマエ 絵



こども文学館⁵

タヌ子先生と4人の名探偵

発行 1978年7月 第1刷 1979年7月 第6刷

著者 しかた・しん

画家 エム・ナマエ

発行者 久保田 忠夫

発行所 株式会社 ポプラ社

〒160 東京都新宿区須賀町5

振替東京4-149271

印刷 新興印刷製本株式会社

製本 富士製本株式会社

落丁本、乱丁本はおとりかえいたします。

NDC 913/166P/22cm 8093-095005-7764

Printed in Japan ©しかた・しん エム・ナマエ 1978

タマ子先生と 4人の名探偵

しかた・しん 作 エイ・ナマエ 絵



はじめに

ぼくらは、四年二組の秘密探偵団。^{ひみつたんでいだん}

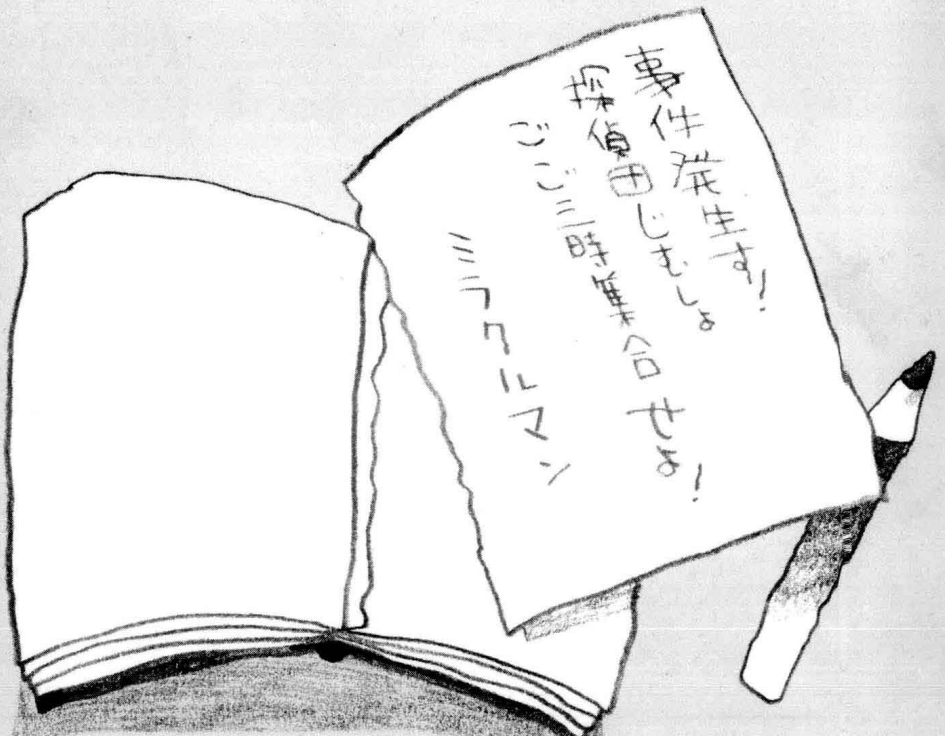
メンバーは四人、男二人、女二人。

みんなすばらしい知性^{ちせい}と肉体^{にくたい}をもっている。

この秘密探偵団に、たいへんな事件がもちこまれた。

クラスメートのカズオくんが行方不明^{ゆくえふめい}!

四人の名探偵は、さっそく行動を開始^{かいし}した。
そして――



1 ゆうかいがいつ? 殺人か?
探偵団が活躍!

2 深まるなど。プラス。ためいき!

3 ダンボールのお化け

4 動かぬカーテン

5 スパイダー・サイズの活躍

6 とけたなぞ

7 カズオは飛んだ

8

40

69

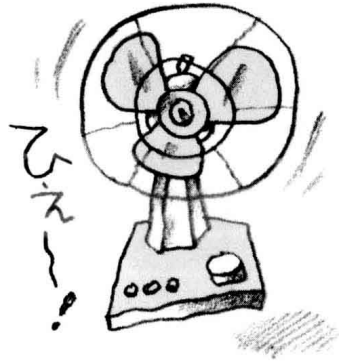
106

121

137

149





▶作者・しかた・しん

1928年、朝鮮に生まれる。京城帝大予科在学中に終戦をむかえ、引揚げる。愛知大学卒業後、中部日本放送のディレクター、劇作家、脚本家などを経て、児童文学の習作を始める。主な作品に、「むくげとモーゼル」(牧書店)「笑えよヒラメくん」「お蘭と竜太」(新日本出版社)など多数ある。

現住所 名古屋千種区徳川山町3-4-8

▶画家・エム・ナマエ (生江^{なまえまさのり}雅則)

1948年、東京に生まれる。慶応義塾大学中退後、絵本、さし絵、人形劇など幅広い分野で活躍。主な作品に、「きかんしゃ」「みつやくんのマークX」「たぬき先生大じっけん」「なんでもでんわ」など多数ある。現在児童出版美術家連盟、童画集団に所属している。

現住所 世田谷区経堂2-1-26 小田急経堂
アパート1021号

夕又子先生と 4人の名探偵

しかた.しん
作

エム.トリエ
絵



1 ゆうかいか？ 殺人か？

探偵団ゴウ！



「事件発生す！ 探偵団じむしょ ござ三時集

合せよ！ ミラクルマン」

四年二組秘密探偵団のぜんいんに、こんな秘密
のてがみがまわってきた。

「へっ！ またミラクルマンだってさ。かつこう
つけちゃって。」

探偵団のひとり、デメコはそういってとんがっ
てくちびるのはしをまげて笑った。

「ほんと。ミラクルマンってつけたあだ名なのに、
かってにつけかえてさ。バァカ。」

同じく秘密探偵団員のリラちゃんが、あいづち
をうって、うすく笑った。

気ぜわしくって、おしゃべりでせっかちで、見
ているとイライラクラクラするから、ミラクラマ

ンとつけたあだ名なのに、かっけてにかっこうよくなおしちまって、おっちょこちょいのばか。

というのが、ふたりの笑いの意味だ。

しかし事件と大きくと、やっぱり探偵団員としての血がさわぐ。

終鈴しゅうれいがなるのをまぢかねて、ふたりは目と目であいずをすると、さっと教室をとび出した。

いっしょに地下鉄ちかてつの駅のほうにかえるキミエやサチコが、なにか黄色いこえでさげんできたようだったが、

「ばい、ばあい！」

と手だけふっておいて、風のようにどたどた、たった、とかけ出す。

“どたどた”というのは、リラちゃんのくつの音だ。体重四十キロをこすリラちゃんが走ると、どうしても“どたどた”と、あたりがしんどうする。

探偵団の事務所は、デメコの家に向かいがわ、やせっぱち公園のなかにある。

やせっほち公園のほんとうの名前は桜山兒童公園だ。桜山兒童公園は、はじめからやせっほちだったわけではない。

ちゃんと、通りのかど地で、たても横もじゆうぶんにあった。それが、かど地の方にはうすく切ったようかんのような背高のつぼのアパートがたち、もう片方は、ヒメノマーケットという市場のへいが、いつのまにかジリジリと公園の中に食いこんできて、すっかりやせ細ってしまったのだ。

アパートのかべと、市場のへいにさえぎられて、ほとんど日がささないために、植えてあるさくらの木もやせっほちで、春になっても申しわけていどにしか花をつけない。

このごろは、子どもたちばかりか、さんぼの犬までもばかにして、よりつかない。おかげで、鉄ぼうも、ぶらんこのくさりも、じやりじやりの赤さびだらけだ。「桜山兒童公園」とほりこんであるおもての通りのどうどうたる石の門が、はずかしがって身をちぢめているようなしまつだ。

そういう目だたない場所なのがつけ目で、探偵団は事務所を、ここに置いている。

やせっほちながらも、五月になればさくらの若葉がみどりの日かげをつくってくれる。

はい色のアパートのかべと、ヒメノマートのぼろぼろトタンのへいを見ないようにすれば、
“みどりのそよ風の中の事務所”と書いていえないことはない。

デメコの家で、いらなくなった木の机つくえが、ベンチの前にかっこうよくすえてあり、これが事務所の机だ。

机の前には、もう秘密探偵団員ひみつたんでいだんいんのひとり、スパイダー・セイゾウが、考えぶかげな目つきで、うでをくんですわっていた。

スパイダーとは、くもという意味だ。

“ちみつに網あみをはって、犯人はんにんをいちどつかまえたら放はなさない、おれにふさわしいあだ名だ”と本人は気に入っているが、

「くもみたいにまっ黒で、ひよろひよろの手足をしているからスパイダーとつけたただけだわ。」

と、これも女の子たちは、せせら笑っている。

「ちょっと待ってね。」

リラちゃんが、ヒメノマートとの境目さかいめのトタンのへいの、はしっこの方をふとい足でが

んといっぱつけとぼした。

ぎいっと音がするとそこだけトタン板がはずれて黒い口がぽっかりあく。リラちゃんはぎゅっとちぢめた大きな体を、その穴あなの中に押しこんでいく。

リラちゃんのうちは、駄菓子屋だがしやさんで、このヒメノマートに店を出している。

そのトタンの穴あなからもぐりこむと、ちょうどお店の裏うらに出るしくみになっている。やがて、リラちゃんの首が穴からにゅっと出ると、ふといこえでさげんだ。

「セイゾウ！ なにをぐずぐずしているの！ はやく！」

「は、はい！」

ひよろながい足をもつれさせながら走り寄ったセイゾウが、その穴から大きなダンボールの箱はこを受けとる。

リラちゃんの首は、また穴の向こうに消えた。

ダンボールの箱の中からは、手品てじなのようにいろいろなものが出てくる。

まず青い大きなビニールのテーブルかけ。

これはリラちゃんのお母さんが寄付きふしてくれたものだ。木の机つくえの上にひろげると、きゅ

うにあたりが青あおとすずしそうになる。

つぎは、大きなせんぷう機き。これは、はい品捨ひんすて場ばから、ミラクラマン太郎がひろってきて、セイゾウがなおしたものだ。セイゾウが、さっきのトタンの穴あなまでコードを引っぱって行って、ごそごそと穴の中にもぐりこみ、市場いちばの外がわのかべまで引っぱってあるコンセントにつなぐと、ぶんぶんけいきよくまわり出す。そのコンセントおよび電気は、これもリラちゃんのお母さんの寄付きふということになっている。

ときどき、「ひええーっ」という、悲鳴ひめいのようなりごえをあげることのぞけば、か
んろくじゅうぶん、どうどうたるものだ。

「あと、ちゃんとしておいて。」

セイゾウにいいつけながら、両手いっぱい紙袋かみぶくろをもったリラちゃんが、また穴からはい
出てくる。

「ああら。いつもごちそうさま。」

ちょっと、おしとやかにいって、デメコが紙袋かみぶくろをあけると、これもリラちゃんのお母さんが寄付した、ビسケットやピーナッツが、ざらざらと出てくる。

お菓子かしの出現しゅっげんと、まるで時間を合わせたように、ミラクラマン太郎がいきおいよくとびこんできた。

「いやあ、待たせてごめんごめん。」

いいながら、ひよいひよいと手早くチョコボールをえらび出しては口の中にほうりこむ。デメコが、大きな目玉でぎよろりとにらんでいった。

「食べるのはあと。仕事じけんがさきよ。——事件じけんってなんなのさ。」

そして、太郎の前のチョコボールを手早く自分の口の中なかにほうりこんだ。

「それがね——」

太郎は、大きく息を吸すってみんなの顔を見た。

「いいかい、きょうはほんものの事件じけんだぞ。行方不明ゆくえふめい事件じけんだ。」

せんぶう機きが「ひええーっ」と悲鳴ひめいをあげた。

だがみんなは、わざとのようにおちついた顔かおをしている。

デメコが、つめたい横顔よこがおを見せたまま鼻はなうたまじりにいった。

「どうせまた、犬いぬか猫ねこの行方不明ゆくえふめいでしょ。探偵団たんていだんが、しゅつどうするほどのことはなさそ



リラちゃん

